

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 祝町 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに、全国平均を上回っていた。 ・特に「話す・聞く」内容の問題については、全国平均を大幅に上回っていた。
	よくできた問題	・必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題。
	努力が必要な問題	・情報をどのように整理しているかについての問題。

算数	全体的な傾向や特徴など	・「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに、全国平均を上回っていた。 ・数と計算の領域の問題については、全国平均を大きく上回っていた。
	よくできた問題	・求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断する問題。
	努力が必要な問題	・表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める問題。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「自分には、よいところがある」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と答えた児童の割合が全国平均を大きく上回った。自己肯定感や共感的な人間関係が深い学びの基盤になることが、日頃の児童の様子からも感じられる。 ・ほとんどの児童が普段1時間以上家庭学習に取り組んでいる。家庭学習は、内容の定着だけでなく、学習習慣づくりにもつながっている。 ・「授業で、ICT機器の使用頻度が多い」、「学習でICT機器を使うのは勉強の役に立つ」と答えた児童の割合が全国平均を大きく上回った。日頃の取り組みから、その効果が児童自身に実感できている。 ・「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と答えた児童が全国平均を大きく上回った。主体的・対話的な学びを積み重ねた成果と言える。 ・「読書が好き」と答えた児童が全国平均を下回った。「1日当たりの読書時間」も30分より少ない児童が多かった。 ・「困りごとや不安がある時に、先生や大人にいつでも相談できる」と答えた児童の割合は、全国平均を下回った。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・読書時間の確保や、タブレット活用のスキルアップを図るため、朝の「学力向上タイム」を工夫しながら継続していく。
- ・授業や学校生活でのタブレットの活用を継続し、児童一人一人の活用スキルを更に高める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・自主学习ノートの「祝っ子ノートフェスタ」を継続し、価値付けや工夫の共有を通して、表現力の育成や意欲向上につなぐ。また、動画の視聴やゲームに多くの時間を割いている児童が見られるため、児童自身が「時間の使い方」を意識できるように、指導や声かけを行う。
- ・児童アンケートの実施を継続するとともに、結果をもとに個別の相談や支援、スクールカウンセラーとの連携等を、より丁寧に行うようにする。